

学会彙報

○平成二年大塚漢文学会大会

六月二十三日(土)

東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

一、朱彝尊の詩論をめぐって

筑波大学 谷口 匡

二、初唐詩における水石の描写と元結の詩文について

文教大学 加藤 敏

三、嵇康の文学と思想について

法政大学 安藤 信広

四、天道幽且遠——陶淵明の合理主義的一面について

上田高校 上田 武

五、周予同について——経学と五四運動

群馬工業高等専門学校 阿川 修三

六、魏源の公羊学について

筑波大学 中村 俊也

七、「老子」王弼注における道と無

国学院大学 中野 達

八、論語の指導

麹町中学 安居 総子

九、漢文授業の起承転結

静岡県教育委員会 小倉 勇三

十、中国における古典教育

京都教育大学 青木 五郎

〔総合〕

一、開会の辞

内山 委員

二、議長選出 間嶋潤一氏を選出

三、委員長挨拶

水沢委員長

四、諸報告

(1) 庶務

伊原 委員

(2) 企画

田部井委員

(3) 会報編集

高橋 委員

五、議事

(1) 平成元年度決算

大塚 委員

(2) 平成二年度予算

大塚 委員

六、閉会の辞

内山 委員

○月例会

平成二年十二月一日(土)

桜蔭会館

一、初出誌における魯迅小説の語彙語法について

筑波大学 大塚 秀明

一、李陵の禍について

東京工業高等専門学校 吉原 英夫

○月例会

平成三年三月九日(土)

桜蔭会館

一、康有為の芸術論とその周辺

群馬女子短大非常勤講師 平野 和彦

一、中国映画の現状と問題点

文教大学 白井 啓介

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員の出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3、編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会則は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。

以上

編集委員

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
 (文学・語学) 牛島 徳次・内山 知也・伊藤 虎丸
 (漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

中国文化 一九九一

平成三年六月二十五日印刷
 平成三年六月二十九日発行

漢文学会会報四九号

編輯者

高橋 均・謡口 明・大上 正美
 安藤 信広・小谷 一郎・白井 啓介

印刷所

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
 株式会社 共立社印刷所

電話(三三六)二〇二八
 FAX(五三九)八七八八

茨城県つくば市天王台一―一―

筑波大学文芸言語学系内(三三〇五)

発行所

大塚漢文学会